

世界で2例目のベラゴドゥウイルスの分離

オルソブニヤウイルス属のベラゴドゥウイルス (Balagodu virus) は、1963年にインドで一度だけ分離が報告されている節足動物媒介 (アルボ) ウイルスです。2020年に宮崎県の牛舎で採集された微小吸血昆虫 (ヌカカ) から分離された国内新規のウイルスが、ベラゴドゥウイルスであることを全ゲノム解析により明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. 分離ウイルス (MZ-2/C/20) のゲノム配列は、オルソブニヤウイルス属シンプウイルスグループに含まれるベラゴドゥウイルスの配列と高い一致を示しました。分子系統樹解析では、ベラゴドゥウイルスは、同ウイルスグループのうち、人、家畜、野生動物での感染が確認されるクレードAに分類されます (図)。
2. ベラゴドゥウイルスは、1963年にインド南部で野鳥 (インドアカガシラサギ) からの分離が1例 (PB1株) 報告されているだけで、今回の分離は2例目となります。

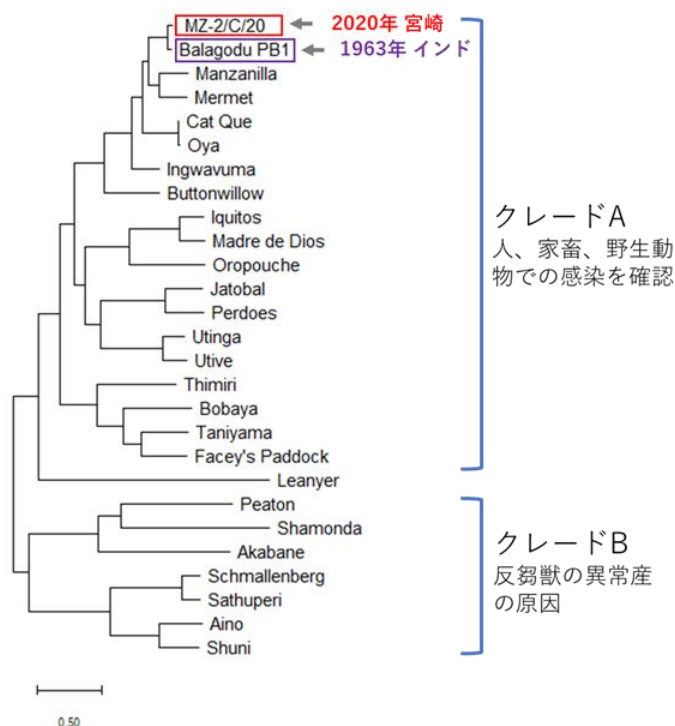


図 シンプウイルスグループのM RNA分節の配列に基づく分子系統樹

☆ 活用面での留意点

ベラゴドゥウイルスの病原性は不明ですが、近縁のウイルスは人の熱性疾患や家畜の異常産を起こすことから、国内で感染が広がっていないかどうか注視する必要があります。詳しくは、農研機構「お問い合わせ窓口」 (<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>) までお問い合わせください。